

会 議 録

会 議 名	平成 30 年度第 2 回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会	
日 時	平成 30 年 5 月 28 日 (月) 午後 2 時 15 分～4 時 50 分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 804 会議室	
出 席 者 氏 名	委 員	井上仁会長、大宝院清孝副会長、荒井容子委員、石井淳委員、岡崎理香委員、鈴木紀幸委員、田上美穂委員、野中真理子委員、廣元洸委員、松野美樹委員、三浦佐知子委員、三浦誠委員、山本由佳理委員（会長、副会長、以下五十音順）
	関連所管	中野目南大沢保健福祉センター館長
	事務局	豊田子ども家庭部長、澤田子どものしあわせ課長、小俣保育幼稚園課長、福田子育て支援課長、小池児童青少年課長、辻井子ども家庭支援センター館長、後藤主査、小島主査
欠 席 委 員	石田健太郎委員、内野彰裕委員、町田利恵委員	
議 題	議題 (1) 第 3 次子ども育成計画の取組状況の点検及び評価について	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由		
傍 聴 人 の 数	0 名	
配 付 資 料 名	別紙のとおり	
会 議 の 内 容	別紙のとおり	
会 議 録 署 名 人	平成 30 年 6 月 25 日 石 井 淳	

配付資料

- 第 3 次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成 30 年度点検・評価報告書（平成 29 年度分）案（別冊）
- 平成 30 年度開催予定（資料 1）
- 委員名簿（資料 2）

【澤田子どものしあわせ課長】

これより平成 30 年度第 2 回社会福祉審議会児童福祉専門分科会を開催します。始めに前回欠席されていた委員と事務局職員を紹介します。廣元洸委員と子ども家庭支援センター館長の辻井です。続いて、子ども家庭部長の豊田から一言申し上げます。

【豊田子ども家庭部長】

昨年度は市制 100 周年の年でした。次の 100 年に向けて、次代を担う子どもたちにどうやって八王子の魅力を伝えていくかということを含めて各種記念事業を行ってきました。今年度は市制 101 年目の年ということで、子ども育成計画の取り組み状況を点検していただき、どんな八王子が子どもにとって住みやすいまちなのか、そういう視点も含めて評価をしていただきたい。どうぞよろしく申し上げます。

【井上会長】

それでは、議題に入ります。第 3 次子ども育成計画の取組状況の点検及び評価について。今年度の評価は次の育成計画への反映ということになります。事務局から説明をお願いします。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第 3 次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成 30 年度点検・評価報告書（平成 29 年度分）案 P 11～18 を説明）

【井上会長】

ここまでで質問ありますでしょうか。P 11 教育・保育の中で、年度当初の待機児童 56 人のうち 1・2 歳児が 53 人と多いのはなぜでしょう。

【澤田子どものしあわせ課長】

地域的なことが影響していると考えられます。

【小俣保育幼稚園課長】

主に本庁地区と由井地区に待機児童が発生しています。本庁地区は大規模集合住宅が出来た影響、由井地区はみなみ野エリアで戸建て住宅が引き続き増加していることが原因と考えられます。また、昨年度 1 歳児に待機児童が多かったため、今年度 2 歳児の待機児童が多くなっているということもあります。

【豊田子ども家庭部長】

昨年度から保育施設の定数を 188 人分確保し、待機児童を 107 人から 56 人に減らすことができました。市全体として必要な定数は確保したが、地域性により結果的として待機児童数が発生してしまった。昨年度の待機児童数 107 人から 51 人減としたことから、31 年

度には待機児童ゼロをめざして取り組んでいきたい。

【井上会長】

P13 放課後児童健全育成事業について。学童保育における高学年の受入状況はどうなっていますか。

【小池児童青少年課長】

高学年を受け入れている施設は14施設。待機児童が発生している状況では低学年を優先しているところです。

【井上会長】

高学年の受入状況は実施状況の欄に入れておいてください。

【岡崎委員】

P17 ファミリー・サポート・センター事業について。平成29年度の提供会員数はP49の実績値709人ということによろしいでしょうか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

そのとおりです。

【岡崎委員】

先ほどの説明では、提供会員の高齢化により会員数が減っているということでしたが、提供会員数は減っているのでしょうか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

提供会員の登録から一定期間経過したため、会員継続の意思確認作業を行っています。その中で高齢のため続けられないという声を耳にしています。

【岡崎委員】

地域別の会員数がわかる資料はあるのでしょうか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

提供会員が住んでいる町ごとのデータがあります。

【井上会長】

提供会員数の傾向はどうなっていますか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

多少の上下はあったとしても、ほぼ横ばいで推移していると記憶しています。

【井上会長】

高齢化による提供会員数の減少に、どう対応していますか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

民生委員の集まりに参加し、提供会員の勧誘を行っていますが、大幅な増加にはいたっていない状況です。

【井上会長】

都会型ファミサポの特徴として、依頼会員は多いが、受け手となる提供会員が少ないということがあります。八王子ではどうでしょうか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

依頼会員は2,000人を超えている状況ですから、提供会員が追いついていない状況です。提供会員は709人登録されていますが、すべての方が活動されているわけではありません。

【井上会長】

ファミリー・サポート・センターは地域の支え合いの象徴です。これをどのように考えていくのか、八王子型で考えていかないと、だんだんと状況が悪くなっていきます。八王子市として何をしていくのか、登録型のファミサポだけで良いのか、ファミリー・サポート・センター事業を今後どうしていくのか、検討が必要です。

他になければ、説明の続きをお願いします。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P21・22を説明）

【井上会長】

施策1子ども参画のしくみづくりについて。これまでも「子ども議会」や「子どもの意見発表会」などが実施されてきましたが、制度化されているわけではありません。昨年度実施した「子どもミライフォーラム」のように、あらゆる施策に子どもの意見を反映させる仕組みを作っていきたいということです。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P23～26を説明）

【井上会長】

施策4の評価欄にある「プレーパーク事業の実施支援」とは、ツリークライミング体験のことでしょうか。プレーパークの考え方は、子どもを自由に遊ばせるということだけではありません。プレーパークに関する市の考え方は、まだまとまっていないはずです。具体的な内容を確認するとともに、誤解を与えないような表現に修正しておいてください。

【澤田子どものしあわせ課長】

確認します。

【井上会長】

施策 7 赤ちゃんふれあい事業については、本当に熱心にやっただいただいていると思います。

【岡崎委員】

まだ実施していない学校は、何か理由があるのでしょうか。

【事務局】

独自の取り組みを実施していることから、市の事業を利用していなかったり、生徒の状況から、赤ちゃんや妊婦さんを学校に呼ぶことに不安があるなどです。

【岡崎委員】

学校側の理由ということでしょうか。

【事務局】

引き続きPRは続けていきますが、学校側にも様々な理由があるようです。

【井上会長】

赤ちゃんや妊婦さんが集まらなくて事業が中止になる自治体も多いようですが、赤ちゃんや妊婦さんの確保状況はどうでしょうか。今後事業を進めていく上で、障壁となるようなことも把握しておいてください。大学生でも3分の2が子どもを抱いたことがないと言いますし、赤ちゃんとふれあうことは大事なことです。

【豊田子ども家庭部長】

市としては、学校から要望が来れば実施しているという状況です。学校側も行事があったりと大変なようですが、積極的に進めていきたいと考えています。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P27・28を説明）

【井上会長】

施策 8 乳幼児期の教育・保育の質の向上について。障害者計画の中に、障害児の支援が含まれたことで、事業の進め方が複雑になった印象です。基本的には障害者計画の中で取り組んでいくことになると思いますが、子ども育成計画の中にも障害児支援の項目は必要です。子ども家庭部と福祉部は、どのように障害児支援を進めていくのでしょうか。

【豊田子ども家庭部長】

障害児支援は、障害者福祉課が中心になって進めていくこととなります。障害者福祉課

が開催する検討会の中に、子ども家庭部が入って、いっしょに取り組んでいく。そういう役割分担になっていくと思います。ただ、保育園での発達障害児対応については、子ども家庭部で行なうこととなります。マイファイルを使った障害児への支援などを検討していきたいと考えています。

【井上会長】

今部長がおっしゃったようなことが必要になってきます。境界線にいる子どもたちへの支援を考えたときに、特別な支援を望まない保護者も多い。八王子で行っているマイファイル事業は、こういうケースで有効になってきます。子ども家庭部、福祉部、医療保険部、学校教育部の連携が重要です。以上のようなことをコメント欄に追加しておいてください。また、それぞれの施策がマイファイルをどのように活用しているのか、わかるように記載しておいてください。

【岡崎委員】

マイファイルは電子化する予定はありますか。

【澤田子どものしあわせ課長】

マイファイルは個人情報が大変多く入っているものでありますので、子どもの成長記録など、一部の情報のみであります。子育て情報モバイルサイト「はち☆ベビ」で電子データとして残せる機能を追加しました。

【井上会長】

ほかに施策 8 でいうと、八王子型の保育の質のガイドライン。そろそろ手をつけていけないといけませんね。

【小俣保育幼稚園課長】

公立保育園のガイドラインは、一定の案ができています。これをもとにして、私立保育園の保育の質のガイドラインを作っていく予定です。

【井上会長】

認可部会も基準が何もないと困ってしまいます。市のガイドラインがなければ、国や都の基準で判断せざるを得ない。ガイドラインの策定には時間がかかりますので、早めに取り組んでください。保育の量も大事ですが、質も大事になってきます。

ガイドラインでいうと、ひろばもガイドラインを作ることになっていたと思いますが、いかがでしょう。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

まだ、策定にはいたっていません。

【井上会長】

子ども育成計画の期間も残り2年ですので、策定をよろしくお願いします。

【石井委員】

施策9保・幼・小連携の推進ですが、実施小学校数は掲載されていますが、参加している保育園・幼稚園の数はわかりますか。

【澤田子どものしあわせ課長】

各小学校に保育園・幼稚園を割り振っているの、カウントすればわかります。

【井上会長】

すべての園で実施しているわけではないのですか。

【事務局】

すべての園ではありません。

【井上会長】

参加してもらわないと意味がありませんので、啓発を行っていきましょう。評価欄には、実施園数や実施率を加えておいてください。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P29～32を説明）

【井上会長】

施策10放課後の健やかな育ちを支える活動場所の充実について。週5回実施する放課後子ども教室が増えてきています。学童保育所の定員が増えることによって、週5回実施する放課後子ども教室が減ってしまうということはないでしょうか。検証は可能でしょうか。

【小池児童青少年課長】

放課後子ども教室が充実している学校では、学童保育のニーズは少し低い傾向にあります。

【井上会長】

そのことが数字で出せて、効果があるということがわかれば、放課後子ども教室を強力に推進していく必要が出てきます。学童保育だけでは、放課後の居場所はまかない切れないことは明らかです。これは次期計画でも課題になる部分です。総合的な視点からも放課後子ども教室は大事になってきます。

施策13若者の社会的自立の促進について。就労支援など若者支援は児童青少年課で行っ

ているようですが、18歳を超えた若者や引きこもりの若者の課題も大きくなってきています。引きこもりの若者は、どれくらいいるのでしょうか。

【小池児童青少年課長】

引きこもりの若者の数については把握できていない状況です。現在のところ、相談に来てくれる人を待つような取り組みになっています。

【井上会長】

待っているだけでは難しく、アウトリーチ型で取り組まないといけないですね。青少年に加えて、若者支援にも取り組んではどうでしょう。

【豊田子ども家庭部長】

若者支援については、児童青少年課や児童館、サポステも含めて市として考えていきたいと思っています。

【井上会長】

切れ目のない支援が重要ですから、次期計画ではそのあたりを提案お願いします。

【岡崎委員】

若者の定義は何歳でしょうか。国の定義だと39歳までですが、八王子市も同じでしょうか。

【豊田子ども家庭部長】

八王子市として特別に定義はしていません。児童館であれば18歳まで、サポステで行っている就職支援だとやはり39歳までということになります。

【岡崎委員】

高校を卒業したばかりの人と30代後半の人を同じに扱うのは違和感がある気がします。

【井上会長】

他市では29歳までを若者として支援しているところもあります。自治体の考え方次第ということになります。

【野中委員】

引きこもりの問題でいうと、就学している間は学校との関わりがあるため、実態がつかみやすいが、卒業して地域との関わりがなくなると、実態が見えにくくなってしまいうことがあります。

【井上会長】

アウトリーチ型の支援をどう充実していくかということになりますね。ただ、言葉では

簡単だが、人材も必要ですし、難しい。民生児童委員や青少年対策協議会の方々にも活躍してもらい必要があるのですが、簡単にはいきません。連携する仕組みが必要になってきます。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P33・34を説明）

【井上会長】

昨年度実施した子どもミライフオーラムの中で子どもたちから、「犯罪がなく、市民全員が安心して暮らせるまち」という提案を受けています。子どもたちから提案を受けたということを評価欄に入れていただける良いと思います。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P35・36を説明）

【井上会長】

施策17 保育環境の整備・拡充による待機児童解消について。P11 子ども・子育て支援事業計画でも話に上がりましたが、全体の定数は満たしたが地域的な偏りにより待機児童が発生しているという説明を入れる必要がありますね。学童保育についても、放課後子ども教室やファミサポなど、複数の施策でカバーしながら待機児童問題に取り組んだということを入れておく必要があります。施設や定数の数だけではなく、丁寧に説明した方が良いのかなと思います。

施策18 多様な保育の充実について。病児保育についてですが、評価が難しいところですね。

【豊田子ども家庭部長】

病児保育を行ってくれる病院や医師との関係が大きく、行政主体できるわけではないというのが難しいところです。今後の取り組みとして、関係機関に働きかけていくということ載せていきます。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P37・38を説明）

【井上会長】

施策21 妊娠期からの切れ目のない相談・支援体制の充実について。八王子版ネウボラの取り組みについては、八王子の特徴的な部分なので、妊婦面談8割実施などの取り組みを評価欄に載せましょう。

施策 23 いのちの大切さを若い世代に伝える機会の充実について。評価欄が施策 7 とまったく同じになっていますので、同じ事業もあるかもしれませんが、施策 23 の視点で評価してください。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第 3 次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成 30 年度点検・評価報告書（平成 29 年度分）案 P 39・40 を説明）

【井上会長】

施策 25 地域における子育て支援の充実について。マイ保育園制度は保育ガイドラインが決まらないと評価が難しいですね。

【小俣保育幼稚園課長】

現行計画の策定後、八王子版ネウボラの実施など同じような施策も始めているので、次期計画までに整理をしていきます。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第 3 次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成 30 年度点検・評価報告書（平成 29 年度分）案 P 41・42 を説明）

【井上会長】

ここは、ひろばを活用したアウトリーチ支援事業ですね。子ども家庭支援センターは子育てひろばと連携会議を行っているのでしょうか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

親子つどいの広場とは年に 2～3 回、親子ふれあい広場は子ども家庭支援センター直営です。児童館とは各子ども家庭支援センターが適宜連携を行っています。民間の単独の広場とは、なかなか連携が取れていない状況です。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第 3 次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成 30 年度点検・評価報告書（平成 29 年度分）案 P 43・44 を説明）

【井上会長】

施策 31 家庭教育への支援の充実について。メールマガジンの効果はどう計っているのでしょうか。

【事務局】

年に 1 回利用者にアンケート取っており、節分やひな祭りなどの季節感のある内容については反響が多いです。

【岡崎委員】

メルマガの登録者は何人でしょうか。

【事務局】

登録アドレス 4,600 件に月 2 回送信しています。

【岡崎委員】

施策 31 には指標が設定されていませんが、何を基準に評価しているのでしょうか。メルマガのほかに具体的な取組はありますか。家庭教育支援条例を制定して取り組んでいるような自治体と比べると、八王子市はあっさりとしているような気がします。

【井上会長】

家庭教育については、子ども家庭部のほかにも、保健福祉センターや生涯学習政策課で行っていますよね。

【小俣保育幼稚園課長】

家庭教育の支援については、関連する子ども家庭部、医療保健部、生涯学習スポーツ部で連携会議を始めたところです。具体的な取り組み成果については今後になると思います。

【井上会長】

そういったことも評価欄に記入していきましょう。

【岡崎委員】

乳幼児期の家庭教育支援だけではなく、小・中学校の家庭教育支援の取り組みも取り入れると良いと思います。

【井上会長】

施策 30 の指標ですが、親子クッキングの参加者数だけで成果を計るのは難しくないでしょうか。児童館や健康部、医療保険部でも食育の取り組みを行っていると思いますので、他の取り組みも網羅していただければと思います。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第 3 次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成 30 年度点検・評価報告書（平成 29 年度分）案 P 45・46 を説明）

【井上会長】

施策 32 子育て支援に関わる市民活動団体への支援の充実について。子ども食堂のネットワーク作りについても、ここに該当するかと思いますので、再掲として記入しておきましょう。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第 3 次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成 30 年度点検・評価報告書（平成 29 年度分）案 P 47～50 を説明）

【井上会長】

施策 38 子育て支援に関わる人材育成の充実について。新規や退会した提供会員数の推移を書いたほうが良いですね。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P51～54を説明）

【井上会長】

施策 39 児童虐待の予防や早期発見・早期対応の充実について。ネウボラの妊婦面談の実施率80%というのは、妊婦健康診査の受診率77.8%を超えているということですか。

【中野目南大沢保健福祉センター館長】

初年度の平成28年度は60%前後でしたが、29年度は急速に実施率を上げまして80%になりました。

【井上会長】

八王子版ネウボラは、現行計画開始時には始まっていなかったため、指標に設定されていません。しかしながら、児童虐待の予防や早期発見に貢献していますし、成果も上げていますので、目標値はないにしても、数値を掲載してはいかがでしょうか。

施策 40 児童虐待防止ネットワークの充実について。子ども支援ワーカー2級取得者が3名というのは少ないような気がします。研修受講者が減っているのでしょうか。市の職員に加え、民生委員さんにも受けてもらっている研修ですね。

【野中委員】

何年か前までは研修の受講のお誘いがあった気がしますが、最近はあまり耳にしませんね。

【井上会長】

民生委員さんに届いていないのはもったいない。担当は確認をお願いします。

施策 41 社会的養護を必要とする子どもへの支援の充実について。里親、養育家庭は増えているのでしょうか。

【辻井子ども家庭支援センター館長】

ファミサポの説明会でPRする等児童相談所と連携し、周知と拡大に努めています。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P55～58を説明）

【井上会長】

施策 45 障害児保育や障害児の居場所づくりの推進について。放課後等デイサービスを行

う施設数は増えているのでしょうか。

【事務局】

障害者福祉課に確認しておきます。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P59・60を説明）

【岡崎委員】

施策48ひとり親家庭で育つ子どもへの支援の充実については、自己評価を見る限り、A評価でも良いのかなと思いました。

【福田子育て支援課長】

学習支援を行うことができた家庭については十分成果を上げることができました。しかしながら、支援を行いたかった家庭に対して、実施しきれなかったということもありましたので、B評価としました。

【井上会長】

捕捉率はどのくらいですか。

【福田子育て支援課長】

児童扶養手当全部支給の家庭が約980軒、その中の1割程度かと思います。

【井上会長】

支援を行えなかったのは、地域的な問題ですか。

【福田子育て支援課長】

ご家庭の意識の問題と捉えています。

【井上会長】

今おっしゃられたようなことも評価欄に記入しておきましょう。

【澤田子どものしあわせ課長】（資料別冊 第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく☆はちおうじ」平成30年度点検・評価報告書（平成29年度分）案P61・62を説明）

【井上会長】

母子相談員は何名体制ですか。

【福田子育て支援課長】

子育て支援課では、正規職員1名と嘱託員2名に今回増員した嘱託員1名の4名体制で対応しています。

【井上会長】

学習支援教室は何か所ありますか。

【福田子育て支援課長】

13か所だったと記憶しています。実際に教室をのぞいてみると、熱心に取り組んでいるなという印象です。講師同士の打ち合わせも、各生徒の情報共有をしっかりとやっていて頼もしく感じました。

【井上会長】

以上が各施策の内容でした。全体を通して各委員から何かありますか。

【田上委員】

子育てひろばについてですが、単純な利用者数だけではなく、継続的に利用している人の把握は行っているのでしょうか。

【井上会長】

リピーターの調査ですね。保育事業をやっているひろばでは把握しているかもしれませんが、民間のひろばでは把握できているのでしょうか。ひろばのガイドラインの中で、登録カードのようなものを設定しておけば、うまく解決するかもしれませんね。

【田上委員】

人数の把握とは話がそれますが、広場の中には、ルールが細かすぎる場所もあります。そうすると、一息ついたり、仲間を見つけたりということがしにくいですね。

【井上会長】

ひろばの運営にもタイプがあって、利用はすべて保護者の責任でお願いしますというところと、お茶でも飲んでどうぞゆっくりされてくださいというところがありますね。当然、後者の方が人気ですね。前者には子育てに悩まれている保護者は行きません。ひろばのガイドライン作りの中で、運営者に役割を理解していただいて、虐待防止や子育て支援につながるひろばを作っていく必要がありますね。

【三浦誠委員】

きっかけづくりということ言えば、ひろばのイベント情報を活用するのも方法ですね。他の方といっしょに作業をすることで、打ち解けやすくなりますから。

【井上会長】

子育て支援員研修もひろばの方に参加してもらって、虐待防止や保護者対応を学んでいただいても良いかもしれませんね。民間の運営者をサポートする取り組みも必要です。

【三浦誠委員】

就学支援シートや学校サポーターなど様々な取り組みを行ってはいるが、連携不足によりうまく機能していないという印象を受けます。

【井上会長】

保・幼・小連携協議会を充実していく必要がありますね。

【大宝院副会長】

保・幼・小の連携は良い取り組みだと思っています。前任の小学校では、保育園や幼稚園の先生に小学校の現場を見ていただいて、1年生になって課題になるのはこういうところですよ、園ではこういうことを準備しておいてくださいと具体的にお伝えしました。例えば、人の話を聞くときにはいったんおしゃべりをやめるですとか、そういうことでしたけれど、2～3年かけて重点的に取り組んでいただいた結果、落ち着いて学校生活をスタートできるようになりました。うまくいく場合もあれば、思い通りにいかない場合もあると思いますが、取り組みとしては良いことだと思っています。

【井上会長】

八王子は良い仕組みを作っているのだから、それを活かす取り組みをしていきたいですね。今日いただいた意見は事務局とも相談して、総合評価案を皆さんにお示ししたいと思います。秋からは計画づくりのため、各施策の再評価を実施します。前回は八王子をひとつの地区として考えましたが、今回は地域福祉計画を受けて中学校区での策定になります。事務局が準備する基礎データは、すべて中学校区を基本とした資料としてください。

続いて、事務局から連絡事項です。

【事務局】

次回の日程ですが、7月23日（月）午前中を予定しています。同日に部会の開催も予定しています。詳細が決まり次第、ご連絡します。

【井上会長】

本日の会議は以上で終了します。